

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No418
(新著の紹介)

子どもたちのウェルビーイングを保障する学校教育 ー改めてウェルビーイングとは何かー

木村優先生 (福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



木村 優
きむら ゆう

福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長

1978年、東京都生。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育学）。

福井大学大学院教育学研究科機関研究員、同准教授、福井大学大学院連合教職開発研究科准教授、ボストン・カレッジ客員研究員を経て、現職。専門は、教育心理学、教育方法学。





ハーグリーブス, A.・シャーリー, D. (著) 木村優・篠原岳司・秋田喜代美 (監訳) (2026). 学校のウェルビーイングー変動する世界で子どもたちが輝くための3つの力ー 金子書房

第1章 ウェルビーイングとは何か

第2章 ウェルビーイングの理論:エビデンスとその影響

第3章 ウェルビーイングを問う:より良くするための冒険

第4章 ウェルビーイングの台頭:GERMとVUCAの狭間で

第5章 すべての繁栄に向けて:ウェルビーイングの社会経済

第6章 テクノロジーの利用に関する倫理的問題:スクリーンライフのモラルとは

第7章 自然をとりもどす:人々そして地球のために

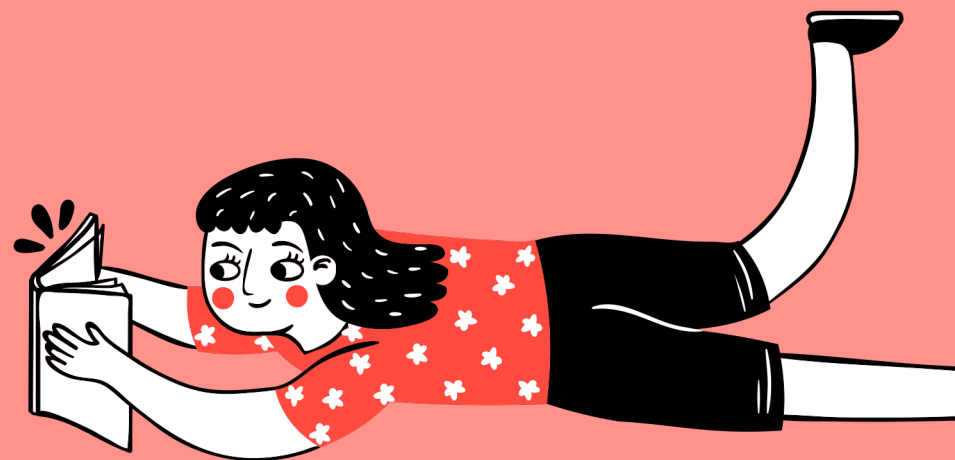
第8章 ウェルビーイングと成功~互いに惹かれ合う正反対のもの

それではご覧ください

22nd Jun, 2026 溝上慎一の教育論（動画チャンネル）

子どもたちのウェルビーイングを 保障する学校教育への挑戦

福井大学大学院連合教職開発研究科 木村優



Well-Being in Schools

Three Forces That Will Uplift Your Students
in a Volatile World

学校の ウェルビーイング

変動する世界で子どもたちが輝くための3つの力

アンディ・ハーグリーブス

デニス・シャーリー 著

木村 優 篠原 岳司 秋田 喜代美 監訳

個人の満足や幸福だけでなく、集団や社会との関係の中でウェルビーイングをも追求することが、課題や問題だらけの社会に向き合う原動力となる。社会学者が将来の社会人になる子供たちにとっての観点からの学びを期待し、学校でのウェルビーイングの実践を総合的に論じる好著である。デューイの探究・民主主義論の現代版である。

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

溝上慎一先生、
推薦！

金子書房





3000年紀（西暦2001～3000年）の夜明けに、人類は目覚め、伸びをし、目を擦る。恐ろしい悪夢の名残が依然として頭の中を漂っている。「有刺鉄線やら巨大なキノコ雲やらが出てきたような気がするが、まあ、ただの悪い夢さ」。人類はバスルームに行き、顔を洗い、鏡で顔の皺を点検し、コーヒーを淹れ、手帳を開く。「さて、今日やるべきことは」

その答えは、何千年にもわたって不変だった。20世紀の中国でも、中世のインドでも、古代のエジプトでも、人々は同じ3つの問題で頭がいっぱいだった。すなわち、飢餓と疫病と戦争で、これらがつねに、取り組むべきことのリストの上位を占めていた。（p.9）

無くならないが、人類のプロジェクト（叡智と努力）で克服できるようになった

次のプロジェクトは？

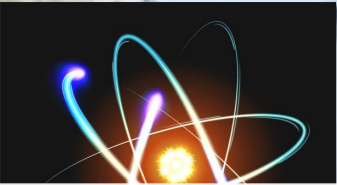


幸福への鍵の発見

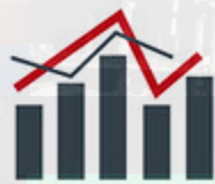
アモータル
非死

VUCAとGERMのはざまで...

Volatility, Uncertainty, Complexity & Ambiguity
Global Education Reform Movement



VUCA



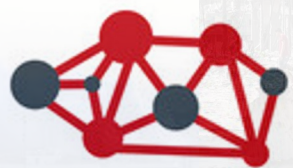
VOLATILITY

變動



UNCERTAINTY

不確定



COMPLEXITY

複雜



ChatGPT



AMBIGUITY

曖昧



Go Anywhere. Get Anything.

COVID-19



VUCA



VOLATILITY

変動



UNCERTAINTY

不確実



COMPLEXITY

複雑



AMBIGUITY

曖昧

自ら考え、考え抜き
VUCAな状況で適切な判断を行い
そうした考えや判断を他者・社会に表現できる力

—

GERM

Global Education Reform Movement

1990年代～現在

グローバル教育改革運動 GERM

(GLOBAL EDUCATION REFORM MOVEMENT)



1995年～

国際数学・理科教育調査 TIMSS (Trends in International Mathematics and Science Study)

対象 小学校4年生・中学校2年生

内容 学校で習う数学（算数）・理科の内容理解の程度を測定する



2000年～

生徒の国際学習到達度調査 PISA (Programme for International Student Assessment)

対象 15歳3ヶ月～16歳2ヶ月（中学校3年生）

内容 学校で習う数学・読解（国語）・科学の知識・スキルの活用能力（リテラシー）を測定する



文部科学省

2007年～

全国学力・学習状況調査

対象 小学校6年生・中学校3年生

内容 国語・数学（算数）、理科（3年に1度）、英語（2019年、中学生のみ）

1990年代～現在

グローバル教育改革運動 GERM

(GLOBAL EDUCATION REFORM MOVEMENT)

国家・地域間、州・自治
体間ランキングによる比
較・競争の激化、標準化
テストへの対応
子どもたちのウェルビーイング
の置き去り

SATs

イギリス

英語（読解・筆記）・数学・科学



PISA



文部科学省

日本

国語（読解・筆記）・数学（算数）

NAPLAN

NATIONAL ASSESSMENT PROGRAM
Literacy and Numeracy

オーストラリア

英語（読解・筆記・会話）・数学的思考

各国政府・自治体は、
読解（国語）・数学・科学
の成績向上に
教育上の努力・投資
を集中

Education Quality and
Accountability Office



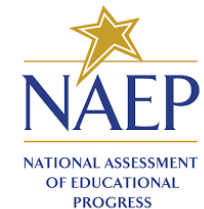
カナダ・オンタリオ州

英語・仏語（読解・筆記）・数学



フランス

仏語（読解・筆記）・数学



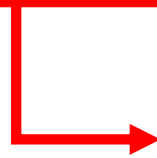
アメリカ

英語（読解・筆記）・数学・科学
他（定期）

グローバル教育改革運動 GERM

2、3の特定教科（国語・算数数学ときどき科学（理科））の

学びに焦点化



学習化 Learnification という問題提起（Biesta, 2010）

「学習」という言葉は個人主義化しやすい＝GERMもまた学習の個人主義化を助長してしまう
➡教育そのもののプロセス、あるいは教育実践の中での「関係性」の重要性への関心を減らす

➡教育の3つの目標：有能化・社会化・主体化の重要性

VUCA

ウェルビーイング
Well-being

GERM

—

ウェルビーイングの時代

The era of Well-being

コロナ禍で私たちがしっかりと目を向けられるようになった 子どもたちのウェルビーイング（↔イルビーイング）

ステイ・ホーム
（自宅で過ごす）



ソーシャル・ディスタンシング
（社会的距離の確保）

2m ≡ 1Beatles



学校閉鎖（休業・休校）

紙ベースの宿題
オンライン学習プラットフォーム
インターネット配信
テレビ放送
ラジオ放送（ポッドキャスト）

教育の提供の変化

分散登校
協働学習の制限
休み時間・児童生徒間交流の制限
学校行事の縮小
地域（学校外）活動の制限

コロナ禍で私たちがしっかりと目を向けられるようになった 子どもたちのウェルビーイング（↔イルビーイング）

家で一人で学ぶことに困難を抱える子どもたち
保護者のサポートを受けられない子どもたち
デジタル機器にアクセスできない子どもたち



重いランドセルを背負わされる子どもたち



先生との関係に悩む子どもたち



多過ぎる宿題に追われる子どもたち



一発勝負のテスト・受験に不安を感じる子どもたち



受け身の授業を
強いられる子どもたち

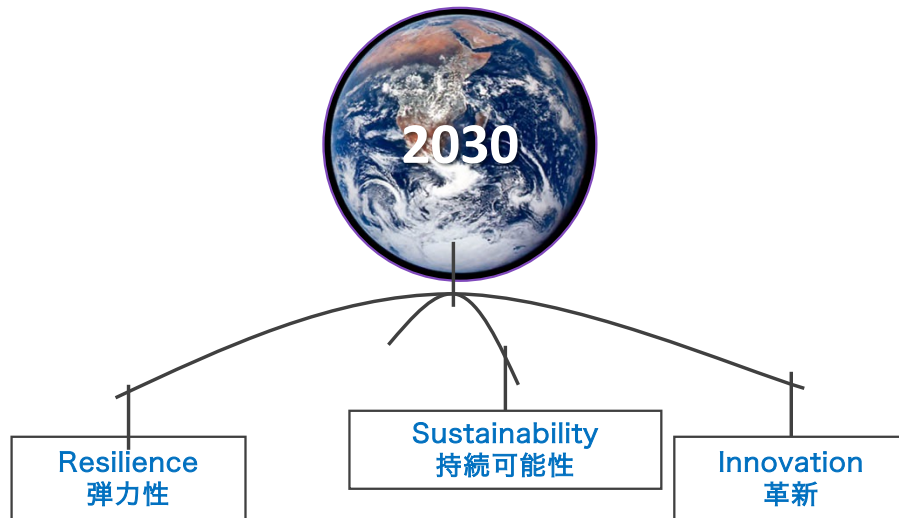


学ぶ課題、探究するテーマ、学び
方を一方的に決めつけられる＝
やらされる子どもたち

ウェルビーイング Well-Being

より良い 個人・社会・世界 であるために

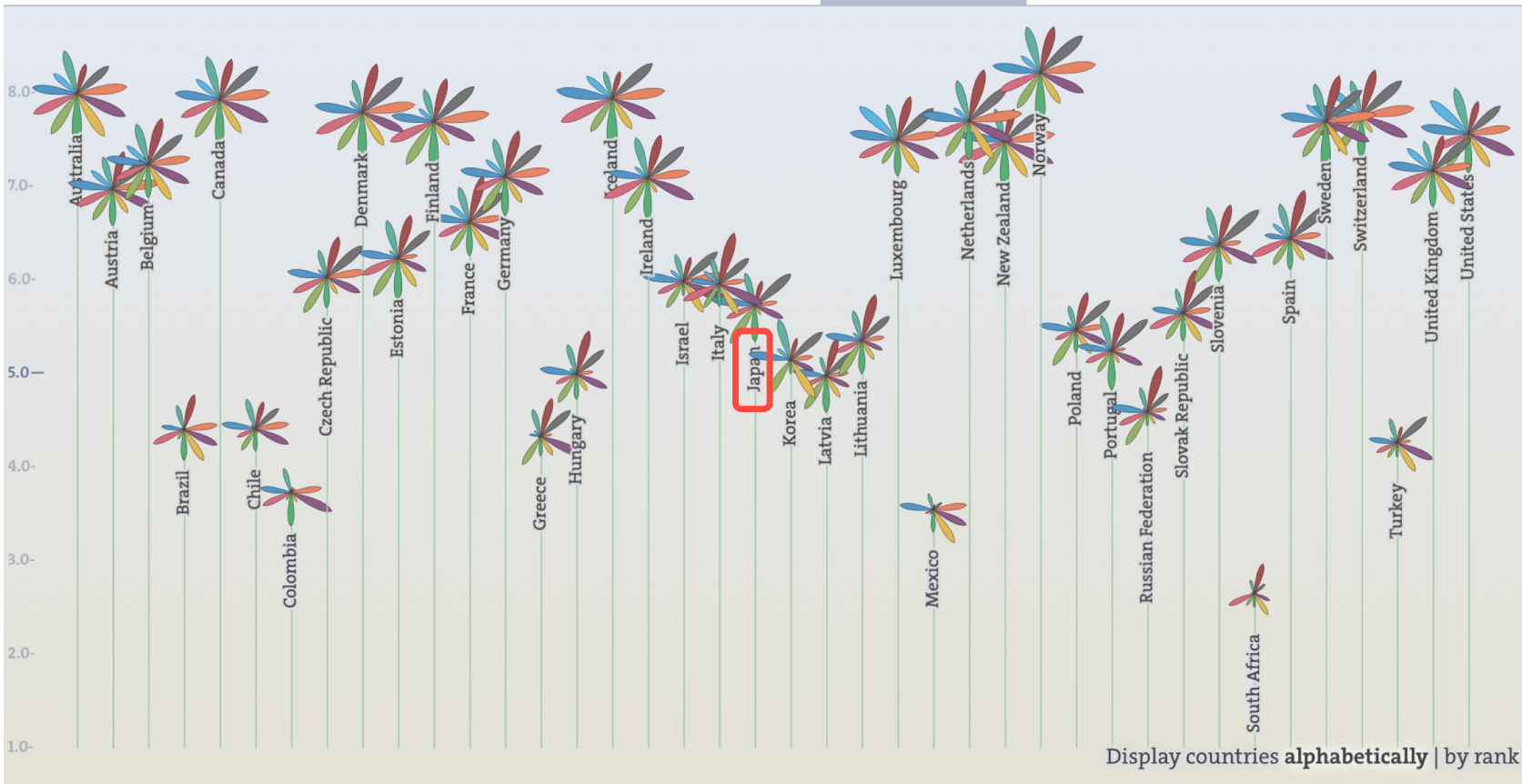
OECD（経済協力開発機構）
より良い暮らし指標
(Better Life Index)



Quality of Life
生活の質の豊かさ



Material Conditions
物質的な豊かさ



Create Your Better Life Index

Rate the topics according to their importance to you:

−

+

	Housing	<input type="range"/>
	Income	<input type="range"/>
	Jobs	<input type="range"/>
	Community	<input type="range"/>
	Education	<input type="range"/>
	Environment	<input type="range"/>
	Civic Engagement	<input type="range"/>
	Health	<input type="range"/>
	Life Satisfaction	<input type="range"/>
	Safety	<input type="range"/>
	Work-Life Balance	<input type="range"/>

⌛ Reset

🔍 Help

↔ Gender differences

ウェルビーイング Well-Being

より良い 個人・社会・世界 であるために

国連SDGs



WHO (世界保健機構)

well-being

health people equity

economic determinants investment COVID-19

empowerment economy of well-being

health in all policies community action

advocacy sustainable development

commercial determinants

communication

life course

sustainable development

quality of life

environment

agenda

population

health in all policies

commercial determinants

equity

individual

health promotion

empowerment literacy

economy of well-being

health advocacy

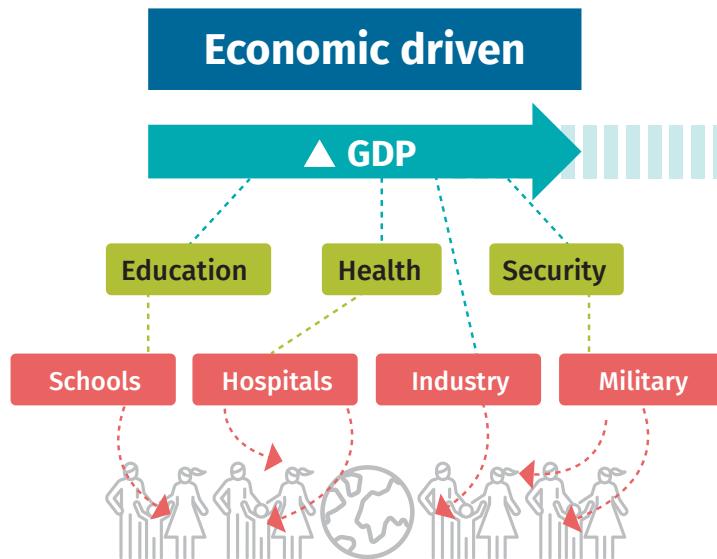
COVID-19 agenda

well-being

advocacy

life course

sustainable

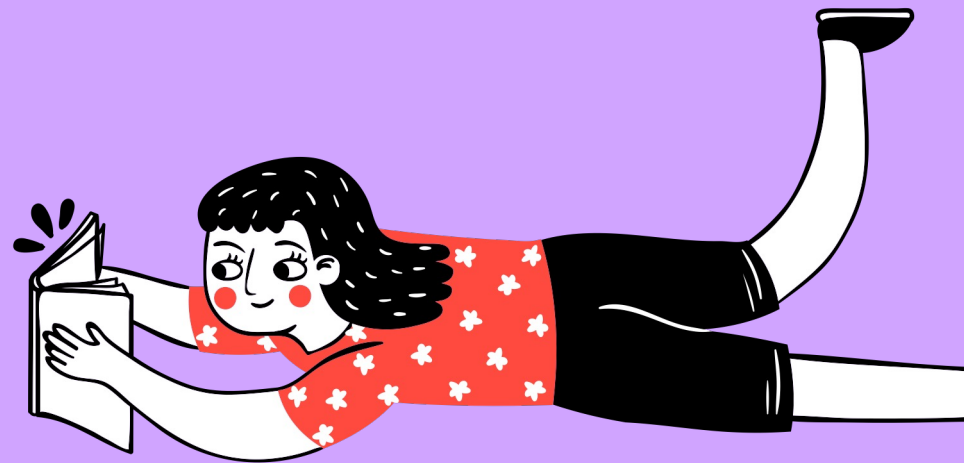


教室の中で 授業の中で 学校の中で

子どもたちのウェルビーイングは保障されているでしょうか？

—

ウェルビーイングに向けた 作戦



ウェルビーイングの主要理論



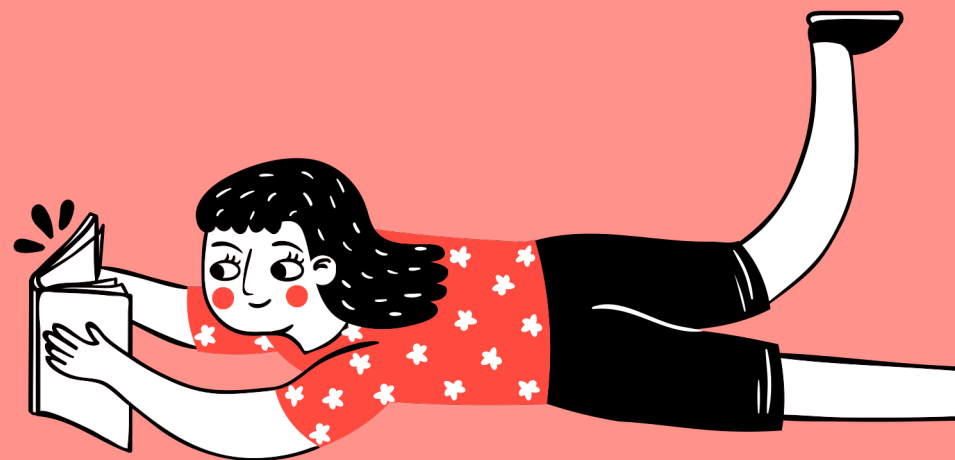
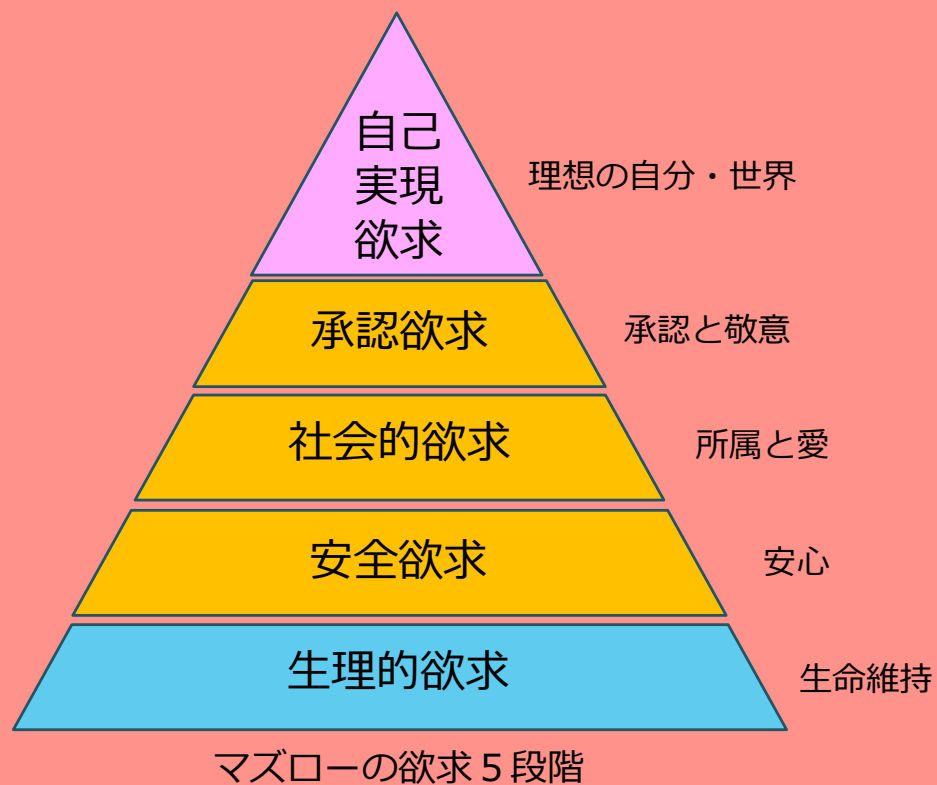
マズローの欲求階層説

成長マインドセット

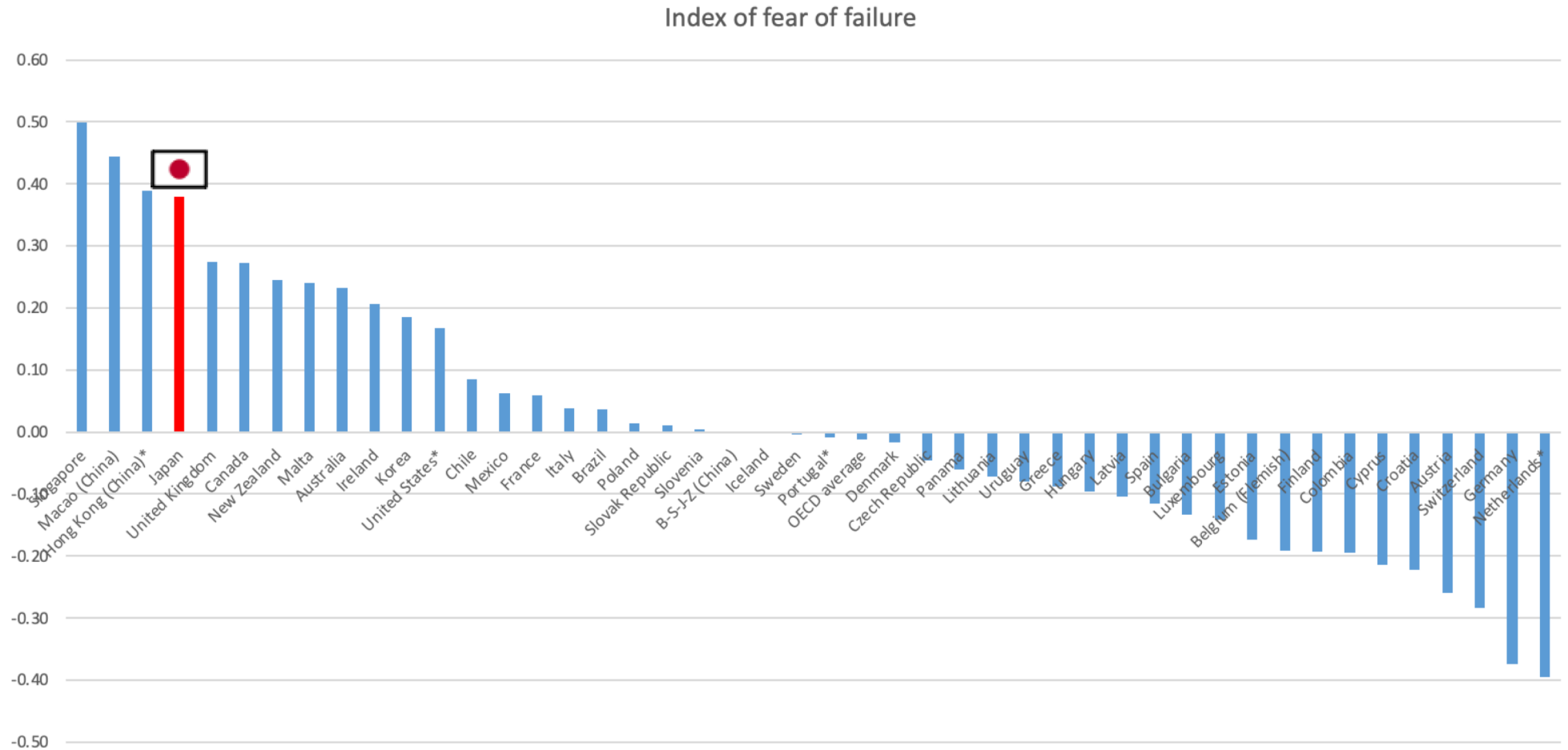
ポジティブ心理学

社会情動的学习
(SEL: Social Emotional Learning)

居場所感・安心の保障 ～恐れのない教室・授業・学校～



日本の子どもたちは
OECD参加国中でもっとも失敗を恐れるグループに該当する



Source: OECD, PISA 2018 Database, Table III.B1.13.2.

居場所感・安心の保障 ～恐れのない教室・授業・学校～



<https://amycedmondson.com/resources/>

「心理的安全性」が
学習・イノベーション・
成長をもたらす

Creating Psychological Safety in the Workplace
for Learning, Innovation, and Growth

Amy C. Edmondson
エイミー・C・エドモンドソン 著
野津智子訳 村瀬俊朗解説

The Fearless Organization
恐れのない組織

HR Award 2021
優秀賞受賞

心理的安全性研究の第一人者による
理論・ケーススタディ・実践への示唆

推薦 篠田真貴子 エール株式会社
取締役

心理的安全性ってそういうことだったのか!

成長マインドセット

自分自身の基本的な資質は、自らの努力によって成長させることができる という信念



自分自身の基本的な資質は、いくら努力しても変わらない という信念

固定マインドセット



成長マインドセット

自分自身の基本的な資質は、自らの努力によって成長させることができる という信念



励ますことが大切。しかし、褒めれば成長マインドセットがいつも高まるわけではない。

心と**環境**の関係

学校や家庭のくらし
かかわり

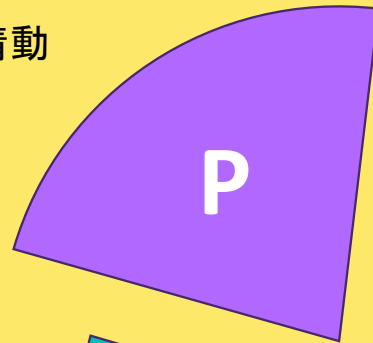
そして、成長マインドセットが万能なわけでもない。



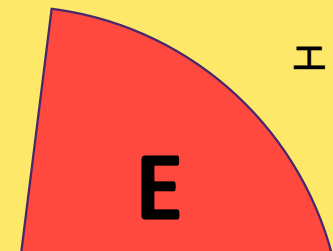
ポジティブ心理学

「プラスに目を向けよう」

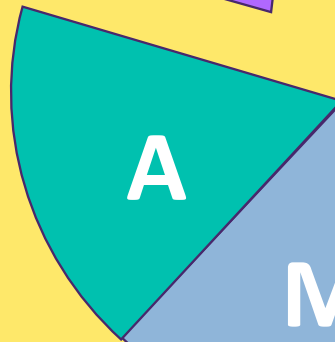
ポジティブな情動
良い気分



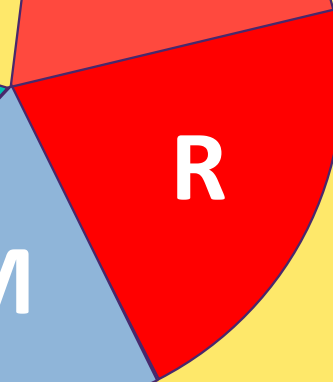
エンゲージメント
フローの模索



成果
達成感



関係性
本物のつながり



意味
生きがい



セリグマンによるPERMA枠組み

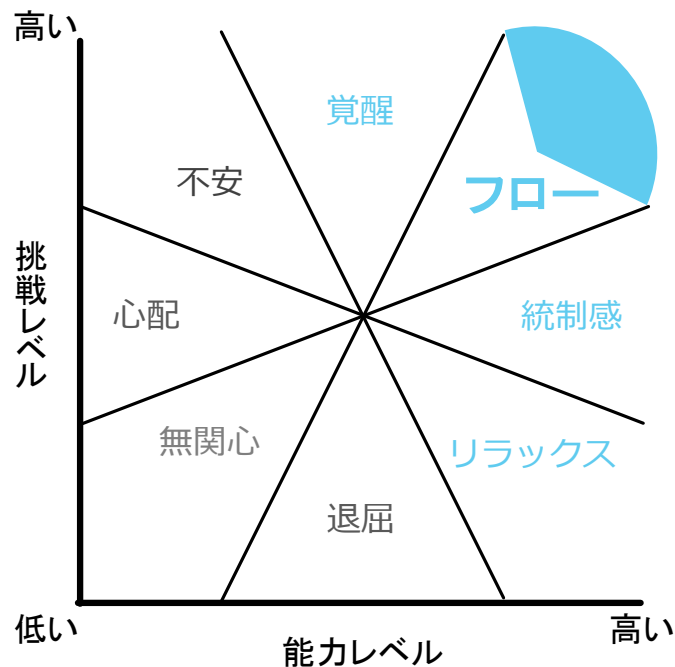
出典：Catarina Linoの"Positive Psychology Theory in a Nutshell"

PERMAはマーティン・E・P・セリグマンの登録商標



フロー (FLOW) =

ウェルビーイングの理論であり
成長の理論でもある



フロー・チャンネル

(Massimini & Carli, 1988; Csikszentmihalyi, 1990)

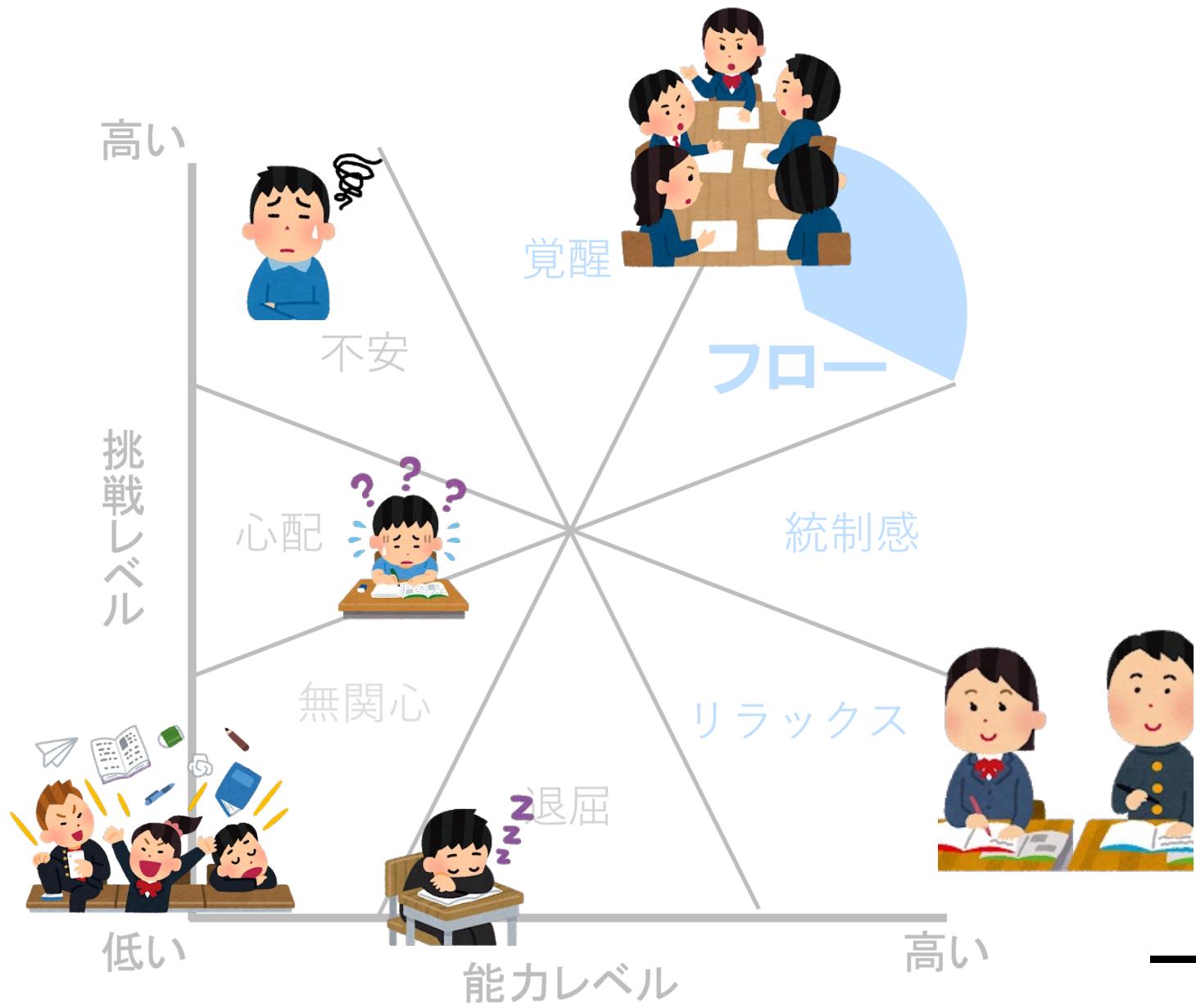
活動の挑戦レベルと自己の能力レベルが高い値で均衡したときに**フロー（最適経験）**が生じる。

➤ フローの「効力」

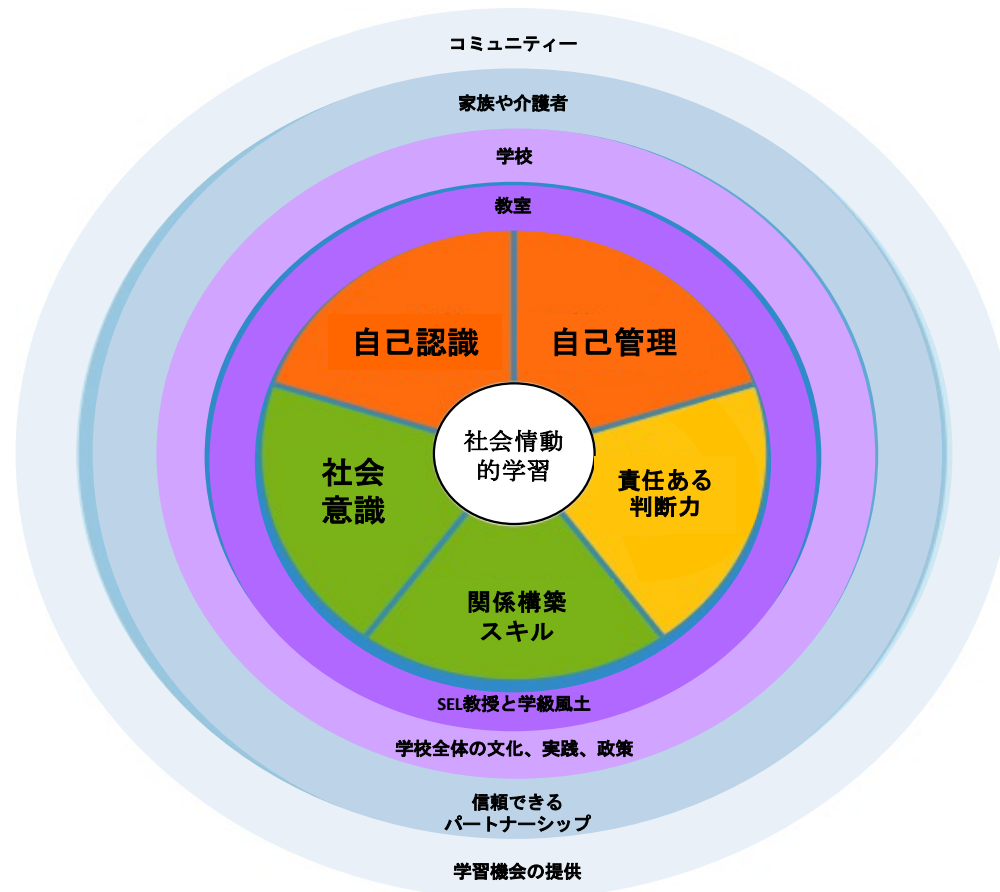
- 活動への没入
- 認知範囲の拡張
- 思考の柔軟化
- 自己統制感の高まり
- 創造性の発揮
- 時間感覚の変化



子どもたちの
学びへの参加や質に
プラス効果



社会情動的学习



CASELの社会情動的学习

著作権：CASEL(2020)

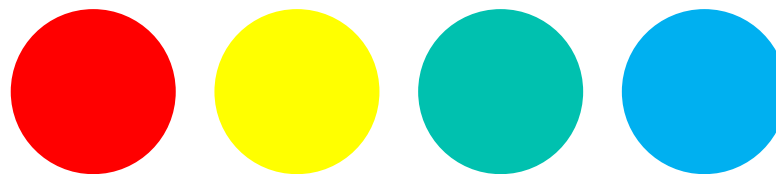


Disney · PIXAR

インサイドヘッド

<https://www.disney.co.jp/fc/pixar/inside-out>

社会情動的学习



ゾーンの調整

= 自己管理・自己調整



自己管理・責任ある判断力
自己決定の保障、有能感の価値づけ、関係づくり



内発的
動機づけ

「手段」としてある活動に取り組むのではなく
(外発的動機づけではなく)、活動そのものが
「目的」となって取り組む心理現象

内発的動機づけを高める鍵は報酬の有無ではなく

自己決定と有能感と関係性

(Deci & Ryan, 2002)

自己管理・責任ある判断力
自己決定の保障、有能感の価値づけ、関係づくり

自己決定と有能感と関係性

(Deci & Ryan, 2002)



❖子どもたちが **自己決定できる機会** を保障する

ex. 学習課題の決定、学習方法の決定、聴く相手の決定など ★教え込まない、任せる

❖子どもたちが **「自分に能力がある」と実感できる機会** を保障する

▶対話 声かけ、励まし、意味づけ、価値づけなど

❖子どもたちが **かかわり合う・他者とかかわる機会** を保障する

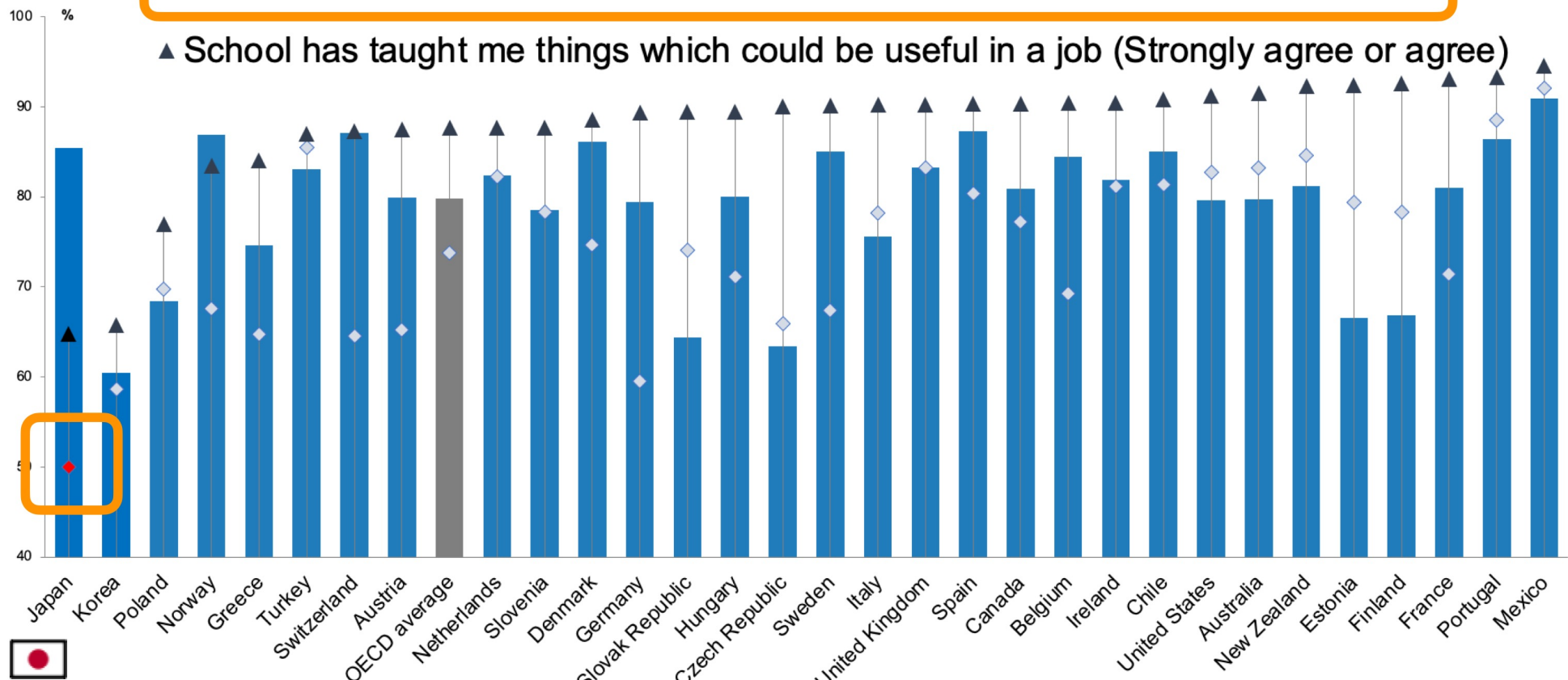
▶対話 ペア・グループ学習、コの字、縦割り、校外、保護者の学習参加など

日本の子どもたちの学校生活満足度は高いが、
物事を自ら決めるよう励ましてもらえる機会が少ない＝自己決定機会が少ない

■ I feel happy at school

◆ School helped give me confidence to make decisions (Strongly agree or agree)

▲ School has taught me things which could be useful in a job (Strongly agree or agree)



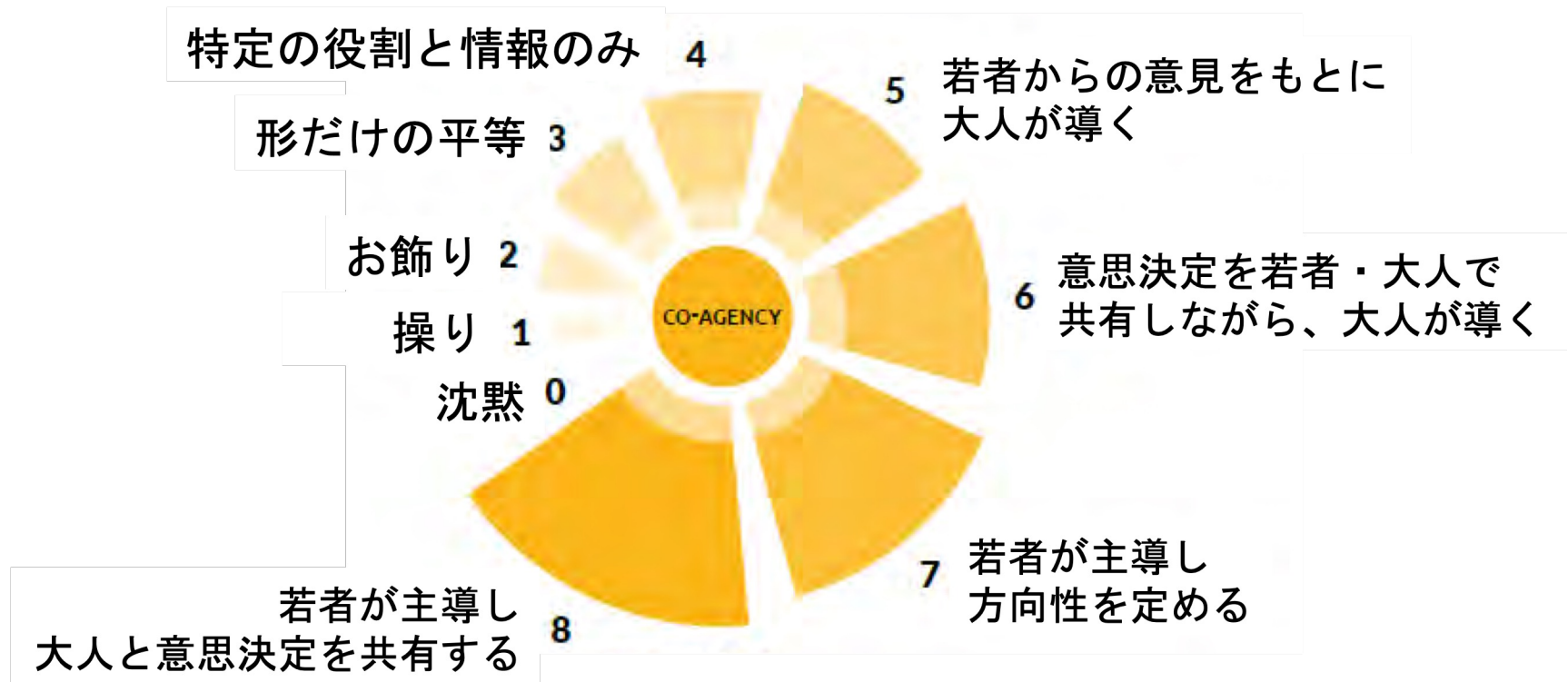
Source: OECD (2013), PISA 2012 Results: Ready to Learn (Volume III): Students' Engagement, Drive and Self-Beliefs, PISA, Figure III.1.2

子どもたちと ウェルビーイングを高める

Navigating the future



子どもたちの 学びのパートナーシップを再考する



共同エージェンシーの太陽モデル（OECD, 2019）

子どもたちとの 学びのパートナーシップを再考する

8	子どもたちが学びを主導し、意思決定は子どもたちと大人たちの協働で行われる。学びの進め方は子どもたちと大人たちの対等な立場で共有される。
7	子どもたちが大人たちの支援を受けて学びを主導し、方向性を定める。大人たちは意見を求められたり、子どもたちが意思決定しやすいようにアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は子どもたちが行う。
6	大人たちが学びをデザインする過程での意思決定に子どもたちも参画する。
5	子どもたちは学ぶ内容や学び方について意見を求められ、その結果について報告を受ける。ただし、大人たちが学びのデザインを主導し、最終的な意思決定を行う。
4	学びの過程において、子どもたちには特定の役割が与えられ、どのように学ぶのか、その理由も伝えられている。ただし、子どもたちは学びのデザインとその意思決定、学ぶ過程での役割の決定には関与しない。
3	大人たちは子どもたちに学びの選択肢を与えているように見せるが、学ぶ内容や学び方を子どもたちが選択する余地は少ないか全くない。
2	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人たちが子どもたちを利用する。
1	主張を正当化するために大人たちが子どもたちを利用し、まるで子どもたちが主導しているかのように見せかける。
0	子どもたちが学びのデザインに貢献できると子どもたちも大人たちも信じておらず、大人たちがすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うの。それに対して子どもたちは黙っている。

子どもたちとの 学びのパートナーシップを再考する

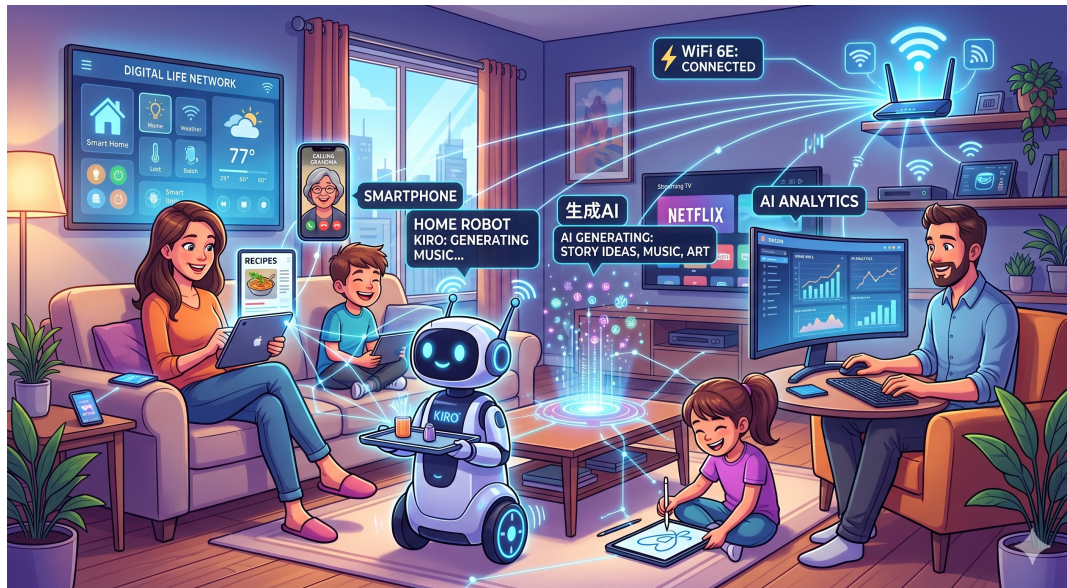
The light is brightest
when we shine TOGETHER

The light is brightest when we shine together.

光は、私たちが共に輝くときに最も鮮やかになる。

—

デジタルとウェルビーイング



THANK YOU

福井大学大学院連合教職開発研究科
木村 優

